

## 令和 7 年度 学校経営計画

江田島市立切串小学校

## I ミッション（地域社会における自校の使命・存在意義）

○ふるさとを愛し、自信と誇りをもって、よりよく生きる児童を育成する教育を推進し、児童・保護者・地域から信頼される、開かれた学校となる。

## II ビジョン（目指す学校像・自校の将来像）

○知・徳・体がバランスよく身に付き、よりよく生きる子どもを育成する。

- ・児童が切串小で学ぶことが楽しいと思う学校
- ・保護者・地域の方々が児童を切串小へ通わせて良かったと思う学校
- ・教職員が切串小で働いて良かったと思う学校

## 【学校教育目標】

ふるさとを愛し よりよく生きる

## 【目指す児童像】

- ・生涯を通じて生きて働く学力を身に付けた子【知】
- ・ふるさとや人を大切にし、よりよく生きようとする子【徳】
- ・主体的に健康を保持増進しようとする子【体】

☆地域ぐるみで児童を育成する コミュニティースクールの推進

## 【目指す教職員像】

- ・確かな授業力・指導力
- ・豊かなコミュニケーション能力
- ・新たなものに積極的に挑戦する意欲
- ・他の教職員と連携・協働した組織的な職務遂行能力
- ・高い倫理観と仕事へのプライド

☆「よりよく生きる」ことを意識したキャリア教育・道徳教育を進める

☆「働き方改革」を推進する職場環境づくり

## III

## ○ 確かな学力(知)

- ・令和 6 年度全国学力・学習状況調査では、学力形成の土台と考える「学びへの主体性や意欲」など自己調整に係る児童の意識を問う設問において、肯定的な回答が県・全国平均を大きく上回っている。
- ・令和 6 年度江田島市準学力調査の結果では、思考力、判断力、表現力において全国平均正答率を上回った学年は、国語（3 学年）、算数（5 学年）となっている。また、昨年度の達成率を上回ったのは 2 年生以上において、国語（1 学年）、算数（4 学年）となっている。国語（話す・聞く）の力の育成が必要となっている。
- ・令和 6 年度、3 年生以上で「単元内自由進度学習」及び「異学年探究活動」を進めた結果、自己調整に係る児童への質問紙調査では、学習に対する安心感や学びを協働する工夫、学びを調整し合う工夫等など、調査した 14 項目中、12 項目において（+）の変容が見られている。

## ○ 豊かな心(徳)

- ・「異学年探究活動」や「単元内自由進度学習」及びキャリア教育の充実により、「ふるさとが好き、大切にしたいと思う」と回答した児童が（99%）であった。また、「自分がかんばったと思うことや、成長したと思うことが表現できる児童（88%）」「相手の話をしっかり聴こうとしている児童（97%）」と、ふるさとや人を大切にし、よりよく生きようとする児童が育っている。

## ○ たくましい体(体)

- ・日々の給食指導や外部講師を招いた食育指導の計画的な実施等により、「給食をバランスよく食べようとしている児童の割合（97%）」
- ・「体育を除く 1 週間の運動時間が 60 分を超える児童（88%）」、「体を動かすことやスポーツには楽しさが『ある』と答える児童（89%）」となっており、食事や運動など自ら健康を保持増進しようとする児童が育ってきている。

- 開かれた学校
  - ・学校の情報発信に対する保護者の満足度は令和6年度（96%）
  - ・学校の相談体制に対する保護者の満足度は令和6年度（97%）
  - ・保護者の安心感を高める各種対応や情報発信に留意するとともに、コミュニティースクールの推進を一層図り、保護者、地域に一層開かれた学校づくりを進めていく。
- 働いて良かったと思える学校
  - ・仕事にやりがいを感じている（肯定）教職員の割合は令和6年度（95%）
  - ・風通しのよい職場だと感じている（肯定）教職員の割合は令和6年度（91%）
  - ・引き続き、教職員が安心して意欲的に仕事が進められる職場づくりに努める。

#### IV 目標及び取組

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
【知】 生涯を通じて生きて働く学力を身に付けた児童を育てる。	①主体的・協働的に学ぶ力（非認知能力）と思考力・判断力・表現力（認知能力）を身に付けさせる。	○単元内自由進度学習など、児童が自ら学習を進めたり、他者と協働しながら学習したりする授業を行う。
	②自分の考えを、自信をもって伝えられる表現力を身に付けさせる。	○授業の中で自分の考えを説明する場や日常的に思いを話す場を設定する。
【徳】 ふるさとや人を大切にし、よりよく生きようとする児童を育てる。	①ふるさと（地域）に愛着をもった児童を育てる。	○生活科、総合的な学習で、切串の『ひと・もの・こと』を題材にした児童主体の探究活動を行う。 ○コミュニティースクールとして、地域の人と様々な形で関わる機会を増やす。
	②自他を大切にできる基盤となる自己肯定感を高める。	○単元内自由進度学習や、児童の自治活動など、児童が自己決定できる場を増やす。教師は肯定的に関わり、振り返りを促す。
	③他者の考えを聴こうとする児童を育てる。	○授業や帰りの会などでフリートークやサークル対話を行い、自分の考えや振り返りを互いに伝え合う場を設ける。
【体】 主体的に健康を保持増進しようとする児童を育てる。	①主体的に健康づくりに取り組む態度を育てる。	○日々の給食指導や食育指導による児童への啓発に年間を通して取り組む。 ○行事などに関連させた体力づくりの取組や業間運動を行う。
	②主体的に運動やスポーツに関わる習慣や態度を育てる。	○運動やスポーツへの多様な関わり方を通して、児童が運動の特性や楽しさを味わえる授業づくりを行う。
開かれた学校をつくる。	保護者の安心感を向上させる。	○学校だよりや学級通信、ホームページやインスタなどで、学校、児童の様子を発信する。 ○迅速・丁寧な保護者対応を行う。
働いてよかったと思える学校をつくる。	職場の心理的安全性を向上させる。	○授業やその他の教育活動における教職員の強みを全体で共有するとともに、お互いが協働して業務を遂行する雰囲気づくりを行う。 ○教職員が働きやすさを感じることができるよう、働き方改革の提案や業務改善を実施する。